

研究主題「論理的思考力をはぐくむ作文指導の工夫 ～表現の仕方に着目して～」

東京都教職員研修センター研修部現職研修課

江戸川区立鹿骨東小学校 教諭 小川 和美

研究のねらい

小学校学習指導要領国語科の目標には、「伝え合う力を高める」とことと「思考力や想像力及び言語感覚を養う」ことが示されている。価値観が多様化する現在、児童にとって必要な力は、「伝え合う力」であり、そのために考えを論理的に組み立てる思考力の育成が求められる。

また、文化審議会答申「これからの時代に求められる国語力について」(平成16年2月)では、論理的思考力の育成は「書くこと」が中心になることを明記しているとともに、「論理的思考力を根底で支えるのが語彙力である。」と語彙を獲得する必要性についても示している。しかし、児童の実態として、思考を進める手がかりになる語彙が、学年に応じて増加しているとは言えない。その原因として、計画的かつ反復的な指導が行われていないことが考えられる。

一方、児童の言語生活は各領域が独立したものではない。このことから、国語科の学習で身に付けた力を言語生活で生かす力とするためには、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を有機的に関連させて指導することが必要である。

そこで、本研究では児童の論理的思考を把握できるものの一つとして表現の仕方に着目し、「思考を進める手がかりとなる表現の仕方」(以後「表現の仕方」と表記する)とその適切な指導時期を明確にすること、「読むこと」と「書くこと」を有機的に関連させ、論理的思考力をはぐくむ作文指導の工夫を明らかにすることを研究のねらいとした。

研究の内容と方法

1 研究の仮説

思考を進める手がかりになる表現の仕方を獲得させることによって、児童は、論理的に思考を進め、自分の考えを構築することができる。

2 研究の内容と方法

内容	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科における論理的思考力を明確にする。 ・思考を進める手がかりになる表現の仕方と指導時期を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」と「書くこと」を関連させた指導の具体化を図る。
----	--	--

		↓			↓
方法	基礎研究	調査研究	検証授業		
	国語科における論理的思考力を明確にするための小学校学習指導要領国語科の学年別指導事項の分析 小学校国語科における論理的思考力を明確にするための小・中・高等学校学習指導要領国語科の分析 論理的思考力及び「表現の仕方」に関する先行研究の分析	教員の作文指導に関する意識調査(8月実施) 教科書教材に見られる「表現の仕方」の分析 児童の作文に見られる「表現の仕方」の分析	「読むこと」と「書くこと」を関連させた指導の流れ・実践事例の作成 ・「読む」過程で「表現の仕方」に気付かせるための支援の有効性 ・「読む」過程で気付いた「表現の仕方」を「書く」過程で活用させるための支援の有効性 ・個別支援表を活用した支援の有効性		

研究の結果と考察

1 論理的思考力の明確化

小・中・高等学校学習指導要領国語科を分析し、国語科における論理的思考力を次のように定義した。

物事や状況の関係を的確に判断し、関係付けながら考えを深め、自分の考えを筋道立てて構築する力

さらに、思考過程を 物事や状況の関係を的確に判断する 関係付けながら考えを深める 自分の考えを筋道立てて構築するの3段階とし、先行研究の分析からそれぞれの思考過程で身に付けさせたい力を表1のように規定した。

表1 思考過程における身に付けさせたい力

思考過程	身に付けさせたい力
物事や状況の関係を的確に判断する	比較する力
	分類する力
関係付けながら考えを深める	順序づける力
	因果関係をつける力
自分の考えを筋道立てて構築する	推理する力
	事象と意見を区別する力

2 「表現の仕方」と指導時期の明確化

それぞれの思考過程で身に付けさせたい力の分類にそって来年度使用する数社の教科書教材の「表現の仕方」を整理し、指導の際に着目する「表現の仕方」をまとめた。

また、小学校学習指導要領国語科の指導事項との関連を図り、重点的に指導すると効果がある項目と時期を明確にした。

3 教員の作文指導に関する意識

小学校教員を対象に質問紙法による作文指導に関する意識調査を行った（平成16年8月実施）。その結果、「文章の組み立てを工夫させる」「順序を考えて書かせる」など文章構成にかかわる指導の重要性に多くの教員が気付いていることが分かった。しかし、その指導方法については、「効果的な文末表現」等の表現の仕方や「読解教材と作文指導との関連」を意識して指導している教員が少なく、効果的な指導が行われているとは言えない。また、「計画的に指導」したり「既習内容を繰り返し指導」したりする意識も低い。このことについて児童作文の分析と関連させて考察すると、計画的かつ反復的な指導が行われていないため、高学年と低学年との表現の仕方に変容が見られないという結果が得られた。

4 検証授業

表2 検証授業

基礎研究、調査研究の結果を踏まえ、次に挙げる工夫等の有効性について授業により検証した。

「読むこと」と「書くこと」を関連させる単元構成

「表現の仕方」の関連における支援

- ・「表現の仕方」に気付かせるための支援
- ・気付いた「表現の仕方」を活用させるための支援

また、その結果を基に「表現の仕方」に着目させて論理的思考力をはぐくむ作文指導の流れと実践事例を作成した。

学年	小学校第6学年(第1回)	小学校第4学年(第2回)
単元名	未来への第一歩！ ～宇宙探索の結果を報告しよう～	じょうぶな橋の仕組みを見つけてぼうこくしよう
教材名	人類よ、宇宙人になれ	アーチ橋の仕組み
学習活動	人類は、宇宙人になれるのか、自分の考えをはっきりさせ、人類と宇宙との今後のかかわりについての意見文を書く	丈夫な橋の仕組みを見つける実験を行い、その実験を基に丈夫な橋の仕組みについての報告文を書く
主な検証の視点	・「読むこと」と「書くこと」を関連させる単元構成 ・「表現の仕方」に気付かせるための支援	・気付いた「表現の仕方」を活用させるための支援

(1) 「読むこと」と「書くこと」を関連させる単元構成の工夫

〔手だて〕 教材文と意見文や報告文等の内容を関連させる。

「読む」過程において説明的文章の「表現の仕方」や文章構成から筆者の論理を学ぶ。

教材文の「表現の仕方」や文章構成に倣って意見文や報告文を書く。

〔結果〕児童が書いた振り返りシートの分析や学習中のつぶやきから、自分の考えを明確に伝

える意見文等を書くために教材文の「表現の仕方」や文章構成をとらえようと主体的に学習を進めたことが明らかになった。「表現の仕方」「文章構成」「内容」の関連によって、目的意識を明確にもたせることができた。

(2) 「表現の仕方」の関連における支援の工夫
〔手だて〕 「読む」過程で「表現の仕方」に

気付かせるための支援の工夫

各児童が、教材文の「表現の仕方」をカテゴリーごとに整理、分類して「作文名人 魔法のハンドブックQ & A」を作成する活動を設定する。

その際、次の2点の支援をした。

(目的) 「読む」過程で「表現の仕方」に着目させ、その効果に気付かせる。
(支援) 「順序」や「因果関係」にかかわる表現等、「表現の仕方」の視点を明確に与える。

(結果) 全児童が本単元で身に付ける「表現の仕方」を見付け、カテゴリーごとに整理、分類して書き出せたことが、「作文名人 魔法のハンドブックQ & A」の分析により明らかになった。学習のめあての明確化につながり、確実に「表現の仕方」とその効果に気付くことができた。

(目的) ・確実に「表現の仕方」に気付かせる。
・「作文名人 魔法のハンドブックQ & A」の作成方法を定着させる。
(支援) グループでの話し合いや具体例の提示を取り入れる。

(結果) グループでの話し合いを通して、「表現の仕方」を確認したり、気付かずにいた「表現の仕方」に新たに気付いたりすることができ、「作文名人 魔法のハンドブックQ & A」に書き加える児童の姿が多く見られた。「作文名人 魔法のハンドブックQ & A」や振り返りシートの分析からも「表現の仕方」を全児童に定着させることができたとともに、話し合いの場が自己評価、相互評価の場となったことが分かった。

〔手だて〕 「読む」過程で気付いた「表現の仕方」を「書く」過程で活用させるための支援の工夫

「読む」過程で作成した「作文名人 魔法のハンドブックQ & A」を各学習活動で活用させるために、次の3点の支援をする。

(目的) 「順序」や「因果関係」等、「表現の仕方」にかかわる思考をしながら取材活動をさせる。
(支援) 「作文名人 魔法のハンドブックQ & A」を確認させながら取材を進めるように個別に声をかける。

(目的) 記述の際に使用する言葉を考えさせ、気付いた「表現の仕方」を記述につなげる。
(支援) 文章の構想を練る活動において、文章構成とともに使用する「表現の仕方」を構想メモに書き込ませる。

(目的) 個に応じた支援を適切に行い、「表現の仕方」を身に付けさせる。
(支援) 個別支援表に学習前の児童の「表現の仕方」の使用状況と各学習活動での使用状況をまとめ、学習活動において「作文名人 魔法のハンドブックQ & A」を確認する等の個別支援を行う。

図1 単元構成及び「表現の仕方」の関連における支援

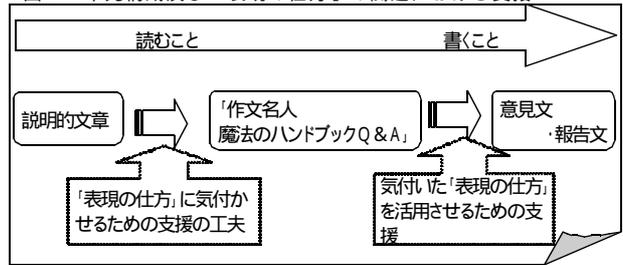
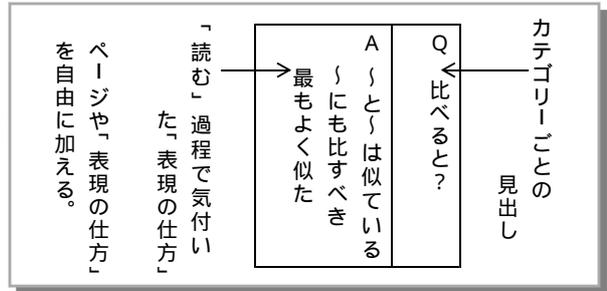


図2 「作文名人 魔法のハンドブックQ & A」の例



〔結果〕以上の支援によって、表3の児童Aに見られるように、学習前には「事象と意見の区別」という「表現の仕方」しか見られなかった児童が、取材活動で、さらに「順序」「因果関係」を活用し、記述には、「比較」「順序」「因果関係」「分類」「事象と意見の区別」にかかわる「表現の仕方」も見られるようになった。

表3 各学習種における「表現の仕方」の活用

個別支援表		児童Aの例					
学習種	表現の仕方	比較	順序	因果関係	分類	推理	事象と意見
	学習前						
ハンドブック作り							
取材							
構想							
記述							

また、振り返りシートの記述、「表現の仕方」の使用状況、個別支援表の分析により、「作文名人 魔法のハンドブックQ & A」は、各学習活動において次のような効果があることが明らかになった。

学習活動	「作文名人 魔法のハンドブックQ & A」の効果
取材	「表現の仕方」を手がかりに計画的に取材することができ、取材内容が方向付けられる。
構想	「表現の仕方」を手がかりに論理的な文章の構成や表現の工夫をすることができる。
記述	「読む」過程で学んだ「表現の仕方」の活用によって論理的に記述することができる。
推敲	「表現の仕方」が自己評価の客観的な観点となり、効果的に加除修正することができる。

学習前と学習後の意見文等に見られる「表現の仕方」を比較してみると、グラフ1に示したように5%の児童しか使用しなかった「順序」に関わる「表現の仕方」を学習後には90%の児童が使用するようになる等、大きな変容が見られた。各児童が、長期にわたり言語活動を通して「作文名人魔法のハンドブックQ & A」に気付いた「表現の仕方」を書き加え、自由に活用することによってさらに効果が上がると考える。

研究のまとめ

1 研究の成果

基礎研究、調査研究を踏まえた検証授業を通して、思考を進める手がかりになる表現の仕方に着目し、身に付けさせることによって、児童は、筋道立った文章を書くことができた。また、構想、推敲等の各学習活動においても「表現の仕方」を活用して学習に取り組む姿が見られた。このことから、児童が、「表現の仕方」を手がかりに論理的に思考を進めることができたと考えられる。本研究を通して、指導者が「表現の仕方」の効果的な指導時期を的確に把握し、「読むこと」と「書くこと」を有機的に関連させて指導することの有効性を明確にすることができた。このように、児童が、論理的に思考を進める経験を積み重ねていくことが、論理的思考力の育成につながっていく。

2 今後の課題

- (1) 「表現の仕方」をより確実に記述に結びつけるための支援等を明確にする。
- (2) 「表現の仕方」に着目した「話すこと・聞くこと」のカリキュラムを開発する。
- (3) 「表現の仕方」を身に付けることによってはぐくんだ論理的思考力が、他教科や他領域等、生活の中で活用できる力となっていることを検証する。

グラフ1 意見文報告文における「表現の仕方」の使用状況

